

東港金屬

環境報告書

2017

1 トップメッセージ



今、原料再生の総合リサイクラーとして出来ることを

代表取締役 **福田 隆**

当社は、原料再生の総合リサイクラーとして、都心の本社工場（大田区京浜島）と千葉工場（富津市）の2拠点体制で取り組み、環境マネジメントの概念を理解し、積極的に環境保全に対応した金属類の再資源化及び産業廃棄物中間処理業務を通して持続可能な環境づくりに努めてきました。

今、サーキュラー・エコノミーの実現をEUでは経済成長戦略の一つとして位置づけています。この考え方は、資源循環の効率化だけでなく、原材料に依存せず、既存の製品や有休資産の再活用なども考慮した循環型経済モデルですが、翻って見れば我が国では江戸時代から既に行われていたことではあります。しかし、過去の大量生産・大量消費という流れの中では、ひたすらビジネスを拡大させることを競い合い、次世代に渡すべき地球資源を循環させていなかったことで貴重な資源の枯渇や地球温暖化を生んできました。

今、世界レベルで廃棄物の動きについて俯瞰すると、循環資源の国際取引の増大に伴い、有害廃棄物等が国境を越えて移動することも増えており、「我が国は公害問題を輸出しない」という考え方のもと、国内では本年6月に特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律（バーゼル法）が改正されました。又、規制される有害物質等の範囲や、取り扱う事業者についても厳しくウォッチしていくための規則作りが始まっており、私たち資源リサイクル事業者自身の意識改革が問われています。

現在の地球の緑を次世代に残すために、今こそ動脈物流と静脈物流が心を合わせ、新しいうねりを作って循環型社会形成に取り組みなければなりません。

当社は廃棄物処理業を担う者として、私たちだからできる責任と役割を果たすために、サーキュラー・エコノミーの考え方を基に、使用済み製品等の効率的な回収で入荷量を拡大させ、確かなリサイクル技術と適切な処理による再資源化、そして、使用可能な製品の修理・再生・販売事業に係ることで、資源のリサイクル率向上を目指し、天然資源の枯渇の抑制に貢献するとともに、最終処分量の削減に努め、これこそが“総合リサイクル”なのだと思え、一つ一つ実行してまいり所存です。

当社の環境マネジメント上の目標管理項目の一つにも挙げている「資源受入量の拡大」では昨年は目標の4.6%増の結果でした。

これからも持続可能な社会形成に貢献してまいります。

2 目次

1 トップメッセージ	1	6 東港金属の責任と役割	9
2 目次	1	事業所リサイクルフロー、 環境安全管理の取り組み、 環境にかかわる教育・コミュニケーション、 地域との共生、事業所の安全衛生 情報セキュリティマネジメント体制	
3 東港金属株式会社について	2	7 グループ会社紹介	19
会社概要、事業概要、会員資格を有する主な団体、 事業所ロケーション、沿革、許可・認定・認証		トライマテリアル株式会社 トライメタルズ株式会社	
4 環境マネジメントシステム	5	8 アーカイブ	21
環境方針、環境マネジメント体制、 目標設定及び達成状況		9 編集方針	22
5 事業活動と環境負荷	7		
マテリアルバランス、マテリアルバランス詳細			

3 東港金属株式会社について

3-1 会社概要

社名 東港金属株式会社 Toko Metal Co., Ltd.
 代表者 代表取締役 福田 隆
 創業 1902年(明治35年)7月
 資本金 1億円
 従業員数 111名(2017年7月1日現在)
 年商 62.4億円(2017年6月期)
 事業所 本社、本社工場、千葉工場、東京事務所、
天童支店
 協力会社 トライマテリアル株式会社
 トライメタルズ株式会社

3-2 事業概要

- ◆金属スクラップ全般に関する業務(国内/輸出入)
- ◆プラスチックの各種リサイクル
- ◆産業廃棄物の収集運搬及び中間処理業、リサイクル
- ◆その他

3-3 会員資格を有する主な団体

団体名	役職(代表取締役 福田隆)
(一社)日本鉄リサイクル工業会	
東京非鉄金属商工協同組合	非鉄金属リサイクル全国連合会 リサイクル環境推進部会 部会長
城南鋳物団地協同組合	理事
東京城南鋳物工業協同組合	
(一社)東京都産業廃棄物協会	中間処理委員会 破碎・圧縮分科会リーダー
電線リサイクル協議会	
品川リサイクル事業協同組合カムズ	理事

3-4 事業所ロケーション

天童支店
 〒994-0016
 山形県天童市東久野本3-2-32
 TEL: 023-654-3358(代)
 FAX: 023-653-4770
 金属製品販売サイト

東京事務所
 〒140-0013
 東京都品川区南大井6-17-17
 FINEビル2F
 TEL: 03-5767-8860(代)
 FAX: 03-5767-8870
 営業部門サイト
 事務部門の一部サイト

本社/本社工場
 〒143-0003
 東京都大田区京浜島2-20-4
 TEL: 03-3790-1751(代)
 FAX: 03-3790-1755
 本社機能と都内立地の条件を活かした小回りの利くリサイクルプラント

千葉工場
 〒293-0011
 千葉県富津市新富52-1
 TEL: 0439-80-4545(代)
 FAX: 0439-80-4646
 1千馬力のシュレッダーを導入した大型処理プラント

4 環境マネジメントシステム

4-1 環境方針

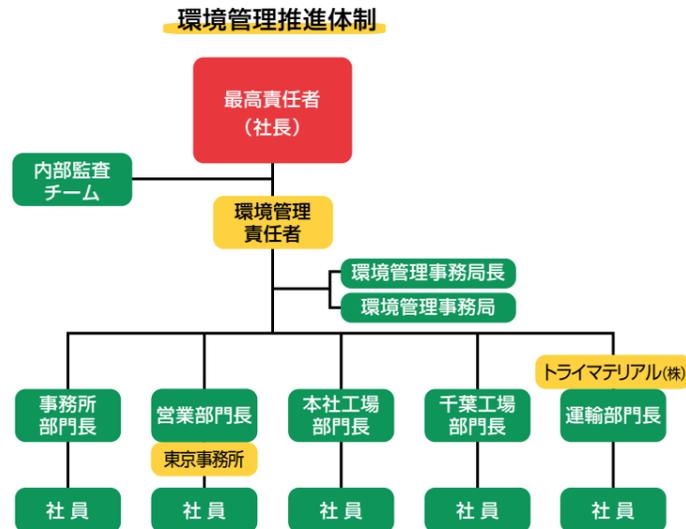
東港金属株式会社は、資源循環型社会の一翼を担う金属加工処理業ならびに産業廃棄物の収集運搬及び中間処理業等の事業を通じて環境負荷の少ないリサイクルに正面から取り組み、社会に貢献できる企業を目指し、従業員が一丸となり環境保全対策を実施し、地球環境保全のために尽くします。

1. 当社の事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面を常に認識し、汚染の予防に努めるとともに環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
2. 当社の環境側面に関係して環境保全水準の向上を図るために法的要求事項、及び自主基準を設け、決めた要求事項を順守します。
3. 当社が行う事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響の中で、以下の項目について重点テーマとして改善活動を推進します。
 - (1) 取扱商品の入荷量を拡大し、当社より排出する産業廃棄物の削減を図り、天然資源の枯渇の抑制に貢献するとともに、最終処分量の削減に努めます。
 - (2) 千葉工場のシュレッダー業務の効率化を図り、処理量拡大を図ります。
 - (3) 各種車輛、重機等に使用する燃料の削減を図り、地球温暖化と化石燃料資源の枯渇の抑制に努めます。
 - (4) 工場内のプラント設備、事務所の照明・空調等に使用する電力使用量の削減を図り、地球温暖化と化石燃料資源の枯渇抑制に努めます。
 - (5) 資源の有効活用のため、コピー用紙使用量の削減に努めます。

2016年7月1日
東港金属株式会社
代表取締役 福田 隆

4-2 環境マネジメントシステム体制

当社は、事業活動を行う上で生じる環境影響を的確に把握し、労働災害や労働疾病防止等をはじめとするさまざまな側面から環境保全に積極的に取り組むため、2006年6月にISO14001を取得し、社長をトップとした環境マネジメントシステムを構築して、環境方針に沿った管理体制の維持向上に努めています。



4-3 目標設定及び達成状況

72期(2016年度) 環境目標設定及び達成状況

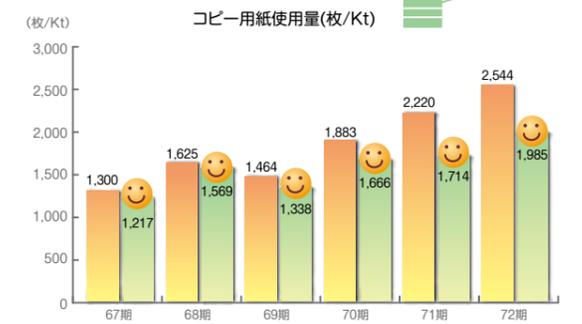
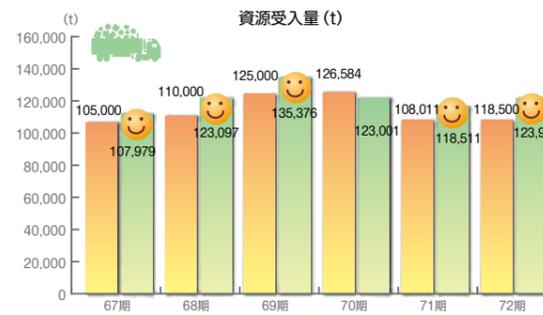
当社は、事業活動、製品、及びサービスが環境に与える影響の中で、重点テーマである省エネ・省資源、効率向上の達成すべき目標を環境保全計画として設定しております。このページではISO14001の適用範囲(本社、本社工場、千葉工場、東京事務所及びトライマテリアル株式会社本社営業所)の72期環境目標・年度環境実行計画に基づくデータを掲載いたしました。72期は本社の重機燃料使用量が目標の1,690リットル/千トンに対して1,697ℓ/千トンと0.4%の未達でした。

部門	推進項目	72期目標	年間目標	結果-数値	達成度
全社	資源受入量の拡大	(1) 営業力の強化(人員補強) (2) 仕入先の拡大(顧客拡大)	118,500t/年の達成	123,929t/年	対目標値よりも更に4.6%増の達成
	コピー用紙使用量削減※1	(1) 裏紙の使用徹底 (2) 不要資料の作成削減 (3) 配布資料及び配布先の適正化 (4) メール・電子化の推進 (5) 糊卸し不用資料の活用	2,544枚/千tの達成	1,985枚/千t	対目標値よりも更に22.0%の削減達成
トライマテリアル(株) 本社工場	燃料使用量削減(運搬車輛)※2	(1) アイドリングストップの励行 (2) アクセルの吹かし過ぎ防止 (3) 急発進の防止 (4) 効率的な積み降ろし・運搬 (5) オイル等の定期的交換、車輛整備	1,200ℓ/千tの達成	1,034ℓ/千t	対目標値よりも更に13.8%の削減達成
	燃料使用量削減(重機)※2	(1) アイドリングストップの励行 (2) アクセルの吹かし過ぎ防止 (3) 急発進の防止 (4) 効率的な積み降ろし・運搬 (5) オイル等の定期的交換、重機整備	1,690ℓ/千tの達成	1,697ℓ/千t	対目標値に0.4%の未達成
	電力使用量の削減※3	(1) 破砕機モーター稼働時のライン設備トラブル減少→データー取り、改善推進 (2) 定期的メンテナンスの実施	11,140kWh/千tの達成	10,129kWh/千t	対目標値よりも更に9.1%の削減達成
千葉工場	電力使用量の削減※4	(1) ライン設備トラブルでの停止時間削減 (2) 定期的メンテナンスの実施	50.0kWh/tの達成	47.4kWh/t	対目標値よりも更に5.2%の削減達成
	シュレッダー稼働率アップ プレシュレッダー導入による受入品目の拡大	(1) ライン整備による稼働率アップ (2) シュレッダーの停止時間の削減	90.7%の達成	93.2%	対目標値よりも更に2.5ポイント改善

※1 コピー用紙使用量原単位=コピー用紙購入枚数(枚)/[本社・製品入出荷量(千t)+千葉工場・製品入出荷量(千t)]
 ※2 燃料使用量原単位=燃料使用量(ℓ)/本社・製品入出荷量(千t)
 ※3 電力使用量原単位(本社)=電力使用量(Kwh)/本社・製品入出荷量(千t)
 ※4 電力使用量原単位(千葉工場)=電力使用量(Kwh)/シュレッダー投入量(t)

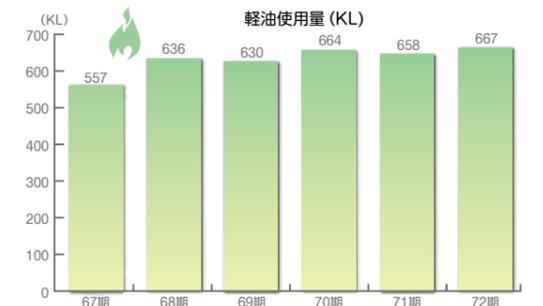
◆全社共通の推進項目の目標と実績

目標達成 😊 目標実績 🟡



68期から東京事務所を対象範囲に拡大

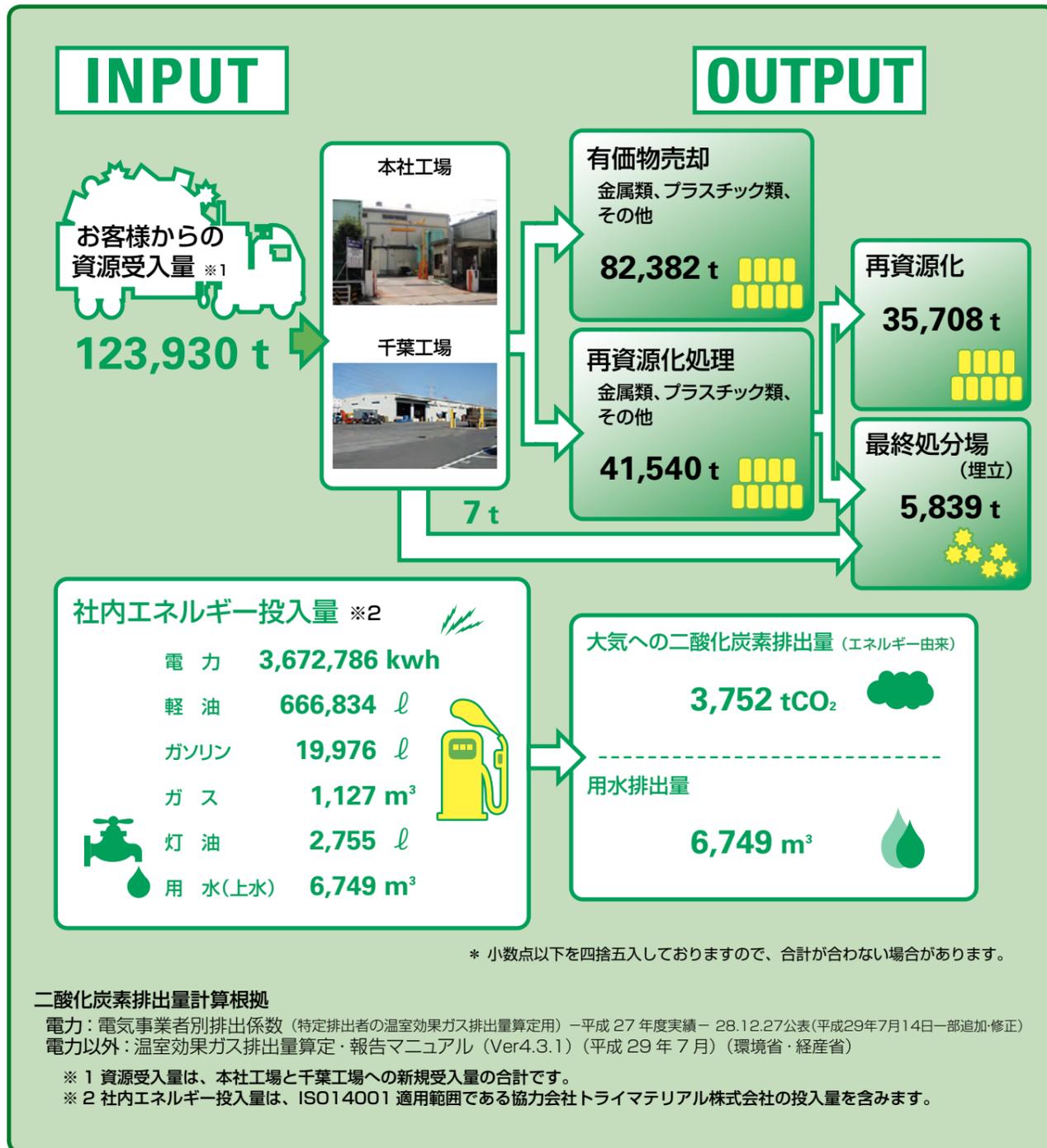
◆電力及び軽油使用量実績



5 事業活動と環境負荷

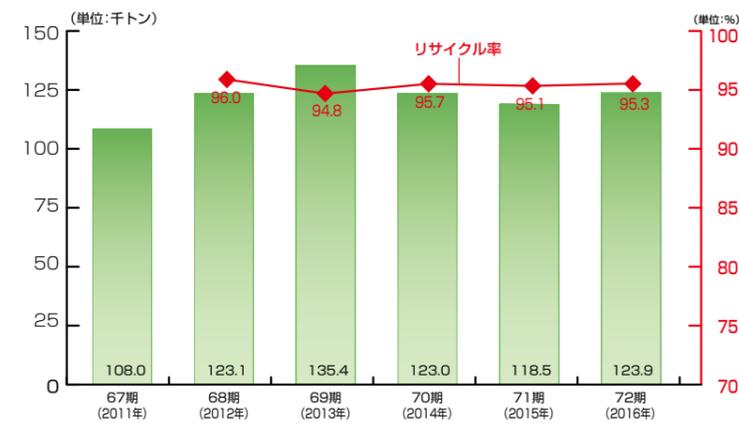
5-1 マテリアルバランス

当事業においては、常に資源のリサイクル率や、再資源化の向上を図るための活動を行いますが、一方、活動における環境負荷として、電力や燃料などの各種エネルギーの消費に伴う温室効果ガスの排出があります。作業効率の向上や工程改善をすることで、環境影響を低減させる努力を続けて参ります。第72期（2016年7月～2017年6月）の主な環境負荷は以下の通りです。



5-2 マテリアルバランスの詳細

資源受入量とリサイクル率実績



リサイクル率：
受入量に対して、東港金属の工場から搬送した先（二次処理先）の埋立率を考慮して求めた率。

$$1 - \frac{\text{（直接埋立処分場への搬送量）} + \text{（二次処理先への搬送量）} \times \text{（二次処理先埋立率）}}{\text{受入量}}$$

INPUT

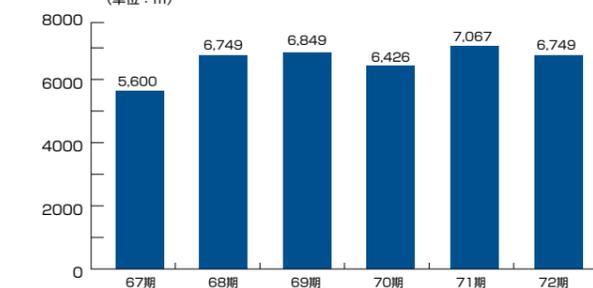


OUTPUT

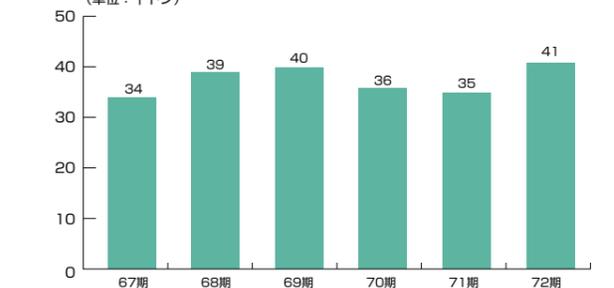


* 小数点以下を四捨五入しておりますので、合計が合わない場合があります。

INPUT



OUTPUT

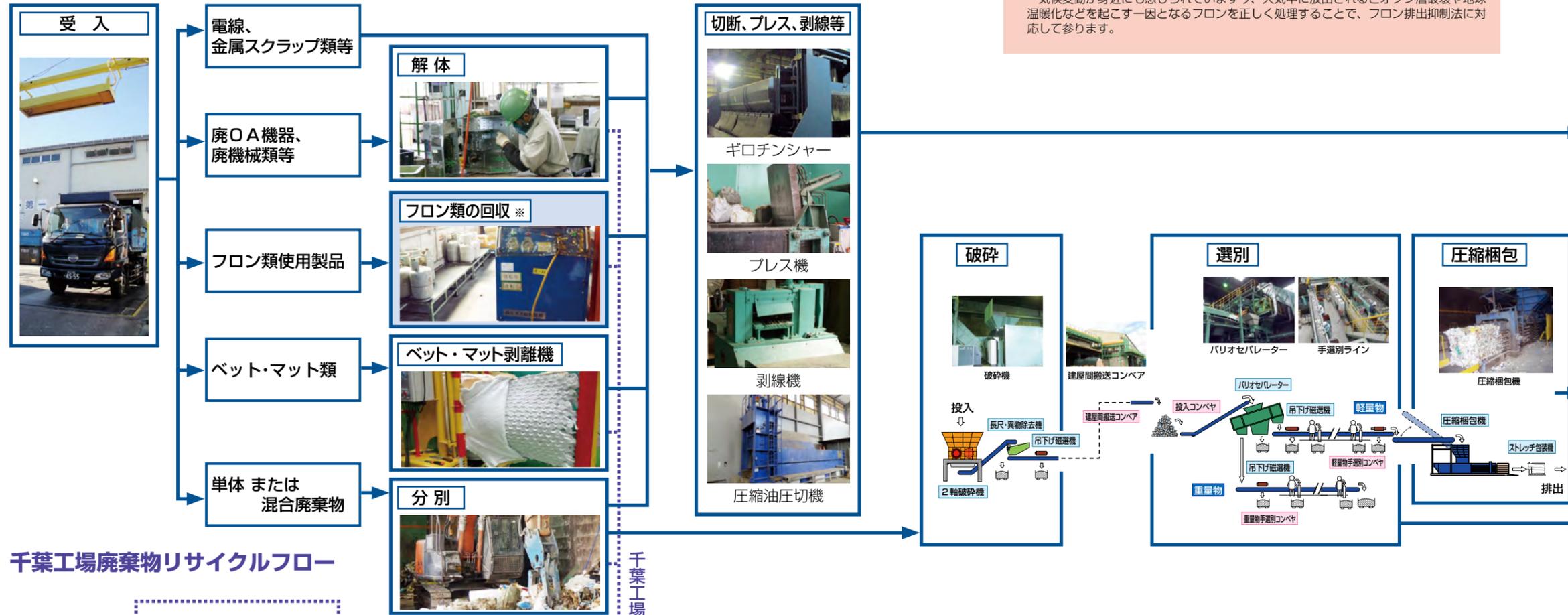


6 東港金属の責任と役割

6-1 事業所リサイクルフロー

本社工場廃棄物リサイクルフロー

本社工場では、多品目の取り扱いと徹底した選別で、出来る限り資源として循環することを目指しております。

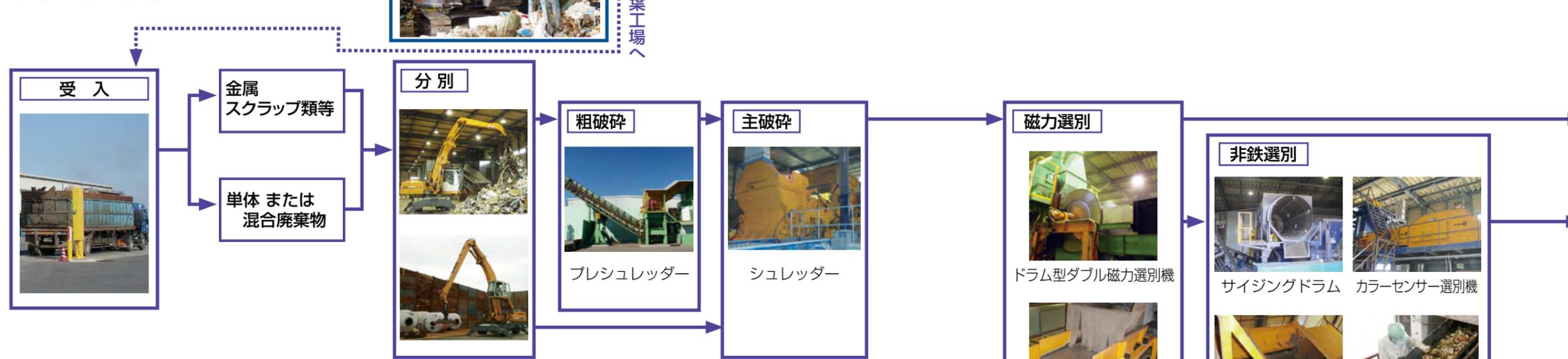


※フロン類の回収
 オゾン層の保護及び地球温暖化の防止のため、オゾン層を破壊したり、地球温暖化に深刻な影響をもたらしたりするフロン類の大気中への排出抑制やフロン類使用製品からの漏えい防止を目的に、フロン排出抑制法（改正フロン回収・破壊法）が制定されております。
 当社は、東京都の第一種フロン類充填回収業者として登録をし、搬入された業務用のエアコンや冷蔵庫の中に入っている冷媒用フロンを適正に回収し、破壊処理業者に引き渡しております。
 気候変動が身近にも感じられています。大気中に放出されるとオゾン層破壊や地球温暖化などを起こす一因となるフロンを正しく処理することで、フロン排出抑制法に対応してまいります。

主な出荷製品 (売却及び適正処理先へ)
 マテリアルリサイクル及びサーマルリサイクル向けの原料化を可能な限り促進し、リサイクル率の向上と適正処理に努めております。



千葉工場廃棄物リサイクルフロー



千葉工場のリサイクルフローでは、破碎と選別工程に最新鋭の設備を導入しております。主破碎には1千馬力のシュレッダーを導入し、シュレッダーで破碎した後は、磁選機・カラー選別機・手選別により、鉄・各非鉄・その他に選別し、後工程の圧縮梱包 / 適正処理の工程に移ります。



船積出荷
 2016年(平成28年)より、スクラップの船による出荷も始めました。

6-2 環境安全管理の取組み

環境測定結果

当社は、事業活動、製品及びサービスに付随して現れる汚染等の環境側面を常に認識して、周辺地域への環境に配慮しその予防に努めております。本社工場、千葉工場の業務に伴って発生する騒音・振動・悪臭・粉じん、及び構内から排出される雨水中の含有物質を自主的に測定し、皆様に開示しております。

今事業期の測定値は自主基準値内でした。今後もわずかな問題点にも処置対応を怠ることなく、地域周辺の環境保全に努め、環境保全水準の向上を図って参ります。

下記環境調査結果の概要版は当社ホームページにも公開いたしております。

【本社】



騒音・振動



粉じん

【千葉工場】



騒音・振動



粉じん



臭気



水質



臭気



水質

第72期 東港金属株式会社 環境調査結果 (騒音・振動・悪臭・粉じん・雨水)

調査実施機関：株式会社環境総合研究所【計量証明登録 濃度第592号、音第7号、振動1号】
 調査期日 本社工場：平成29年5月11日(木)
 千葉工場：平成29年5月12日(金) 粉じんのみ 平成29年6月10日(土)
 調査方法：当該地域を規制する条例等の調査方法を採用(詳細は、弊社ホームページをご参照ください)
 調査結果：適否の欄の記号は次のとおり。 ○：規制基準を満足 ×：規制基準を超過

1. 騒音レベル調査結果

調査場所	調査位置	調査時間	調査結果(騒音レベル)	適否	規制基準	騒音測定時の状況
本社工場	敷地境界(東)	9:30~9:40	65dB	○	70dB(参考)	工場内の稼働音
千葉工場	敷地境界(南)	9:40~9:50	62dB	○	70dB	工場内の稼働音

注)本社工場:工業専用地域であり規制基準は適用されないため、第4種区域の規制基準を参考に示した。
 千葉工場:工業地域であるため、第4種区域の基準を当てはめた。

2. 振動レベル

調査場所	調査位置	調査時間	調査結果(振動レベル)	適否	規制基準	騒音測定時の状況
本社工場	敷地境界(東)	9:30~9:40	45dB	○	65dB(参考)	工場稼働
千葉工場	敷地境界(南)	9:40~9:50	50dB	○	65dB	工場稼働

注)本社工場:工業専用地域であり規制基準は適用されないため、第2種区域の規制基準を参考に示した。
 千葉工場:当該地域は工業地域であるため、第2種区域の基準を当てはめた。

3. 悪臭

調査場所	調査位置	採取時間	調査結果(臭気指数)	適否	規制基準
本社工場	敷地境界(東)	11:10	<10	○	13
	敷地境界(北)	10:20	<10		
千葉工場	敷地境界(北)	11:15	<10	○	—
	敷地境界(南)	11:00	<10		

注)本社工場:当該地域は工業専用地域であるため、第3種区域の基準値をあてはめた。
 千葉工場:富津市は臭気物質規制であり、臭気指数規制値はまだ規定されていない。

4. 粉じん

調査場所	調査位置	採取時間	調査結果(総粉じん)	適否	規制基準
本社工場	敷地境界(東)	9:00~13:00	0.74mg/m ³	○	1.5 mg/m ³ (参考)
千葉工場	敷地境界(南)	9:20~13:20	0.23 mg/m ³	○	1.5 mg/m ³ (参考)

注)東京都、千葉県ともに施設から発生する粉じん濃度には規制値は存在しないため、参考までに茨城県条例で粉じん発生施設に適用される基準値と比較した。

5. 雨水排水

「下水の水質の検定方法等に関する省令(昭和37年厚・建令1)」に基づき、下記項目について調査を実施。
 全ての項目で下水道基準値を満足しておりました。

調査項目:
 カドミウム、全シアン、有機燐、鉛、六価クロム、ヒ素、総水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、ホウ素、フッ素、全クロム、銅、亜鉛、フェノール、溶解性鉄、溶解性マンガン、BOD、SS、n-ヘキサン(鉱油)、n-ヘキサン(動植物油)、全窒素、全リン、水素イオン濃度(pH)、温度、沃素消費量、1,4-ジオキサン

環境関連法規制遵守の現状

環境の法規制で当社及びトライマテリアル株式会社に係るものは以下の通りです。
 第72期で行政より指導・勧告を受けたものはありませんでした。

環境側面	法、条例、等	要求事項(当社該当主要項目のみ)	主な該当施設等	主な該当部署	必用資格	
自動車運行	運搬車輛:自家用車	道路交通法	①自動車免許、速度制限、積載制限	運搬車輛:自家用車	運輸部門・営業部門	大型・普通免許
		NOx・PM法	①規制対応車種 ②PM減少装置の取り付け	—	運輸部門	—
	運搬車輛	道路運送法、 貨物自動車運送事業法	運行管理者の選任	運搬車両	運輸部門	運行管理者 試験合格者
[業] *廃棄物の受入 *収集運搬及び処分業	金属屑、廃プラ類、 ガラス・コンクリート・ 陶磁器屑、繊維屑、 木屑、紙屑、ゴム屑、 がれき類、小型家電	廃棄物処理法 小電リサイクル法	①廃棄物の収集運搬及び処分業の許可 ②廃棄物の保管施設への掲示板の設置 ③委託基準の順守 ④マニユエトの使用及び返却等の管理 ⑤廃棄物処理責任者の設置 ⑥二社契約許可番号、事業の範囲、有効期限、 処理能力、重量、単価等の記載 ⑦産廃最終処分業者の処分場視察 ⑧環境に負荷を与えない施設の維持管理 ⑨資源化を推進し、最終処分量の削減 ⑩地域住民との協調	業として 被処理物の受け 入れ	全体	収集運搬業 中間処理業 古物商
[事業者] 廃棄物の排出	産業廃棄物の排出			業務全般からの 排出		
[事業者] 廃家電等電気製品の排出	特定家庭用機器廃棄物、 パソコン	家電リサイクル法 改正リサイクル法			事務部門 生産部門	—
トラックスケールの使用	トラックスケール	計量法	トラックスケール台貫計量誤差検定 1回/2年 検査	トラックスケール (20t・40t・50t)	生産部門	—
火災の発生	指定可燃物	消防法	指定可燃物貯蔵量調査	工場棟及び 工場内設備	生産部門	—
フロン類の回収	業務用空調機・ 業務用冷蔵庫から のフロン回収	フロン排出抑制法	東京都知事による登録 適正回収、行程管理制度、引取証明書の交付	フロン回収設備等	生産部門 営業部門	第一種フロン類 回収充填業者 登録
材料およびエネルギー の使用を物品の購入時 に考慮	物品の購入	グリーン購入法	グリーン調達を推進し、環境に与える負荷を軽減する	事務所	事務部門	—

環境会計

当社としての環境会計の算出方法を模索しておりますが、当社の本業が環境活動そのものであるため、平成12年3月の環境庁「環境会計システムの確立に向けて(2000年3月)」に記載されておりますように、環境保全コストの把握に関しては今後の課題とさせていただきます。

<参考>

「本業として環境ビジネス(公害防止装置の製造、環境コンサルタント、廃棄物処理・リサイクル事業等)に取り組む場合の環境保全コストの把握(測定)に関しては、困難な問題が多く残されていますが、原則として、本業として取り組む環境ビジネスに関するコストは環境保全コストには含まれないと考えられます。ただし、企業等において独自の算出方法を考案されている場合は、その方法を明示した上で、把握(測定)公表することを妨げるものではありません。この問題については今後の課題とさせていただきます。」

平成12年3月 環境庁 環境会計システムの確立に関する検討会 「環境会計システムの確立に向けて(2000年3月)」より抜粋

グリーン購入の促進

当社では社内の物品調達について、共有使用できるものやリユースできるものの再使用をすすめておりますが、購入に際しても、環境に配慮した品質や価格だけで調達するのではなく、グリーン購入の考えに則した環境負荷低減に資する製品を積極的に使用することに努めております。

バリューチェーンにおける環境配慮等の取り組み方針

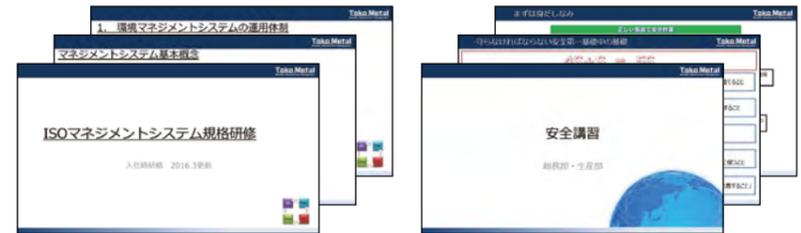
当社の事業活動におけるバリューチェーンに係わる全ての環境に対する影響を把握し、その中で環境負荷の大きなものを環境方針の重点テーマとして改善を図っております。



6-3 環境に係わる教育・コミュニケーション

環境教育

入社時には毎日の生活に関する社内安全・衛生知識の教育の他に、事業活動に付随して生じる環境影響を継続的に改善していくための環境マネジメントシステム (ISO14001) について、環境方針と環境管理体制を教育し、当社の組織の中で、社員全体の環境保全水準が向上するように指導を続けています。

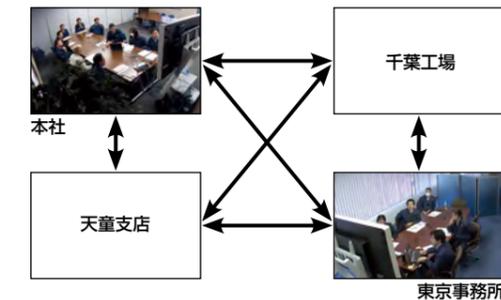


安全運転講習会



当社は、協力会社トライマテリアル(株)と共に、ドライバーのための安全運転講習会を開催し、安全運転を第一に、ドライバーとしての心得 (エコドライブや道交法の確認)、周囲への気配り、毎日の健康管理等について、定期的に講習会を開催し、社員の意識アップを図っています。「安全・確実・迅速」をモットーとしていますが、お客様と直接顔を合わせる会社の顔としての大切なマナーも身につけてもらうために、「ベストドライバー表彰制度」を設けて、月々の作業姿勢やマナーなどの担当職務に優れたメンバーを上司が推薦し、月間 MVP として表彰しております。またトライマテリアル(株)は、所属する東京都トラック協会主催の交通安全や交通公害についての講習会へも参加を奨励しています。

テレビ会議システムの導入



社内工場間の移動時間の削減、ペーパーレス化を進めたいという狙いのもと、インタラクティブ ホワイトボード (電子黒板) を使ったテレビ会議システムを全ての事業所に導入しました。事業所間での個別会議は勿論、全体会議も場所を問わず開催できるので、不要な出張費の削減ができ、正確で迅速な意思決定がその場で参加者全員に伝わるなどのメリットから利用頻度が増えています。

社員の主な資格一覧

毎日の安全作業のため、又業務効率を Up させるために、重機等機械設備の知識や作業技能や、担当業務に必要な資格等を修得するよう奨励しています。

2017年10月末日現在

資格名	人数	資格名	人数	資格名	人数
フォークリフト運転技能者	49	冷媒回収技能者 (登録講習会)	3	産業廃棄物処理業者講習会	7
車両系建設機械(整地運搬積み込み及び掘削用)運転者	33	足場の組立て等作業主任者	2	職長教育	4
玉掛作業員	30	整備管理者	1	救命技能認定	3
車両系建設機械(解体)運転者	29	大型自動車免許	11	酸素欠乏危険作業主任者	2
小型移動式クレーン運転士	15	大型特殊免許	3	ISO 14001 内部監査員	2
ガス溶接技能者	14	けん引免許	3	ISO 27001 内部監査員	2
アーク溶接作業員	12	自動車整備士	1	簿記	7
クレーン運転士 5t 未満	10	安全衛生推進者	6	第二種電気工事士	2
高所作業車運転者	9	安全衛生責任者	4	古物商許可	1
床上操作式クレーン運転士	5	防火管理者	3	特定化学物質作業主任者	1
はい作業主任者	5	運行管理者	1	有機溶剤作業主任者	2
移動式クレーン運転士 5t 未満	3	破碎・リサイクル施設技術管理士	2	基本情報技術者	1
移動式クレーン運転士	2	危険物取扱者	3	陸災防安全衛生教育講師	1
クレーンデリック (クレーン限定)	1	安全管理者	2	特別管理産業廃棄物管理責任者	1
クレーンデリック	1	衛生管理者	1	PCB 廃棄物の収集運搬業従事者 (講習)	1
不整地運搬車運転者	1	産廃又は特管産廃処理業の許可申請に関する講習会 処分課程(更新)	1	公害防止管理者 (大気一種)	1
地山の掘削及び土止め支保工作業主任者	2	産廃又は特管産廃処理業の許可申請に関する講習会 収集運搬課程(更新)	2	公害防止管理者 (水質一種)	1

羅針盤の発行

東港NEWS
羅針盤



お客様及び社員へ、
環境関連の参考情報として「羅針盤」を発行しております。

産業廃棄物処理業界の相場状況及び改正された法律の内容紹介などの参考情報や、当社のトピックスを羅針盤というニュース紙として毎月発行しています。

今年 11 月で 92 号を発行しました。今までのバックナンバーは東港金属のホームページからご覧いただけます。

<https://www.tokometal.co.jp/rashinban/index.html>

号	発行日	トピックスタイトル	号	発行日	トピックスタイトル
57	平成26年12月1日	産廃処理委託契約書の法的記載事項	75	6月1日	「黄砂」について
58	平成27年1月1日	地球環境保全に貢献すると言う事	76	7月1日	「産廃エキスパート・産廃プロフェッショナル認定制度」について
59	2月1日	低濃度PCB廃棄物処理の現状	77	8月1日	刀剣の産地「備前」と「鉄」のお話し
60	3月1日	中国における自動車リサイクルの議論まとめ	78	9月1日	「SOLAS条約」国際海上輸出コンテナの総重量の確定方法の制度化
61	4月1日	フロン排出抑制法(改正フロン回収・破壊法)	79	10月1日	廃プラスチック・リサイクルの現状(その1)
62	5月1日	フロン排出抑制法(改正フロン回収・破壊法)	80	11月1日	廃プラスチック・リサイクルの現状(その2)
63	6月1日	フロン排出抑制法(改正フロン回収・破壊法)	81	12月1日	産業廃棄物税の概要
64	7月1日	小型家電リサイクル法に基づく回収・再資源化実績等	82	平成29年1月1日	産業廃棄物処理業界 景気動向調査結果
65	8月1日	廃棄物の処分に「無許可」の回収業者を利用していませんか?	83	2月1日	LMEについて
66	9月1日	施行1年過ぎました。大気汚染防止法による飛散防止対策	84	3月1日	「汚泥」戸「ばいじん」は中間処理後産業廃棄物か?
67	10月1日	廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び災害対策基本法の一部を改正する法律案の概要	85	4月1日	改正個人情報保護法の概要
68	11月1日	日銀短観と産業廃棄物処理業界動向調査	86	5月1日	日常使われている大事な金属製品
69	12月1日	環境配慮製品の評価(LCA)と廃棄物処理	87	6月1日	産業処理業界の許可証について(許可番号と許可期限の見方)
70	平成28年1月1日	産廃(及び特管)のマニフェスト管理に関する期間	88	7月1日	日常使われている大事な金属製品(硬貨の孔について)
71	2月1日	鉄スクラップの価格推移	89	8月1日	中国における金属スクラップ輸入禁止発表について
72	3月1日	PCB特措法の改正案	90	9月1日	水銀廃棄物の適正な管理のために
73	4月1日	中国における使用済み自動車リサイクル業界の流れ	91	10月1日	自転車活用推進法
74	5月1日	クールビズについて	92	11月1日	「水銀使用製品産業廃棄物」排出時のマニフェスト記載方法



月間MVP表彰制度

ヤードでの日々のメンテナンスと安定した業務に努めた方々をベストヤードマンとして、また安全・迅速・丁寧な運転、効率を考えた運行に努めた次の方々をベストドライバーとして、毎月表彰する制度です。72期は次の方々が表彰されました。

*複数月の受賞者がおります。

ベストヤードマン



ベストドライバー



6-4 地域との共生

城南鋳物団地協同組合の一員として



城南鋳物団地協同組合

首都圏で唯一の鉄及び非鉄金属の総合団地である城南鋳物団地協同組合は、1978年 大田区京浜島工業団地に20社により結成されました。40年後の現在 当初の鉄、非鉄合金鋳物関連企業は半数となりましたが、ステンレス加工、板金、産廃中間処理、建設業等、幅広い業種で形成されています。異業種の集まりとなった団地組合は、和を以て貴しの精神で日夜産業界に貢献しています。当社は本組合の発足当時の組合員として地域発展に努めております。

東京都産業廃棄物協会の一員として

一般社団法人東京都産業廃棄物協会(東産協)は、産業廃棄物の適正処理の推進及び資源循環等についての調査研究、普及、研修並びに指導等の事業を行うことにより、産業の健全な発展、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに循環型社会の形成を図り、もって都民の福祉の向上に寄与することを目的として事業を進めております。

当社も一会員として事業の推進に努めており、今年2月には東産協が採用支援事業の一環として行った東京都内の専門学校での出前授業で、産業廃棄物や3Rについての紹介や持続可能な社会づくりに向けての産業廃棄物処理業の役割や魅力をお伝えしました。

参加した学生方には、携帯電話を実際に分解してその構成素材を確認していただいたり、「建設現場でリサイクル」と言うテーマで班対抗での分別ゲームなどが実施され、建築廃棄物の分別方法を考えるワークショップに参加していただきました。

地球環境保全に直接貢献する静脈産業の役割に興味を持つ若者達が増えることが期待されています。

事業所周辺の美化運動



清掃風景

当社の本社のある京浜島は、東京都大田区の東部に位置し、地域北部には大井ふ頭、北東部には城南島、南東部から南部には羽田空港、西部は昭和島があります。

西部の昭和島との間を京浜運河が流れており、本社は工業団地内にありますが、会社の前には羽田空港のB滑走路に離着陸する飛行機を望める場所としても有名で「つばさ公園」があります。

この地域の環境保全を維持し、見学に来られるお客様や搬入車が気持ちよく来社していただけるよう、毎朝周辺道路及び搬入通路の美化清掃を行っています。

当社は自転車競技に注目しています

公益財団法人 日本自転車競技連盟(JCF)のオフィシャルスポンサーです。



東港金属は環境関連企業として、公益財団法人 日本自転車競技連盟(JCF)を通して自転車競技に参加する選手の皆様を応援しております。

今、二酸化炭素に代表される温室効果ガスが地球温暖化を加速させ、浮遊粒子状物質(SPM)等の大気汚染物質も地球環境を悪化させております。異常気象は地球規模で起きており、四季がある日本でも年々温暖化を認めざるを得ないほど国内各地で酷暑が続きました。

自転車はジョギングと同じで人力を動力源としていることから、二酸化炭素および大気汚染物質を排出しない乗り物です。自転車競技は戦うフィールドによってまったく違った魅力を秘め、トラック競技場で行われるトラック・レース、一般道を走るロード・レースなど、参加選手自身のエネルギーだけでスピードを競い合うもので、そのスピード感が観戦者の心を躍らせます。

東港金属は、人々が楽しみながら、動力による消費エネルギーを少しでも遅らせることが出来る自転車競技を評価し、日本自転車競技連盟を応援することで、地球環境を守る一助としております。

毎年、日本ナショナルチームのユニホームには「東港金属」のロゴも使われています。

BICYCLE CITY EXPO 2017 「自転車まちづくり博」への出展

2017年9月8～9日に、ベルサール高田馬場で、自転車を利活用した町づくり推進を応援した、BICYCLE CITY EXPO 2017が開催され、東港金属は「自転車ワールドを陰で支える総合原料リサイクラー」をテーマに、放置自転車再利用のためのリサイクルの取組みを出展致しました。

今回、初めて開催されたBICYCLE CITY EXPO 2017でのテーマは次の通りでした。

自転車を利活用したまちづくりの推進
環境未来都市の創造に向けての展示会です。

魅力的な自転車ワールドの構築
自転車文化の発展・向上
自転車を取り入れたライフスタイル
などを提案していきます。

会場には高齢化社会への対応として、アシスト付き自転車の利用や、多くの人と自転車を共用して利用する「シェアサイクル」の制度も紹介されました。欧米諸国の大都市圏からスタートした「シェアサイクル」制度も、地球温暖化抑止や健康増進の目的で始まっています。



展示会場(当社のブース)風景



展示で使用した写真はJCFからご提供いただきました

国も、自転車の効用に目を向けています。本年5月には、国の法律として、自転車の活用を総合的・計画的に推進していくことが定められ、「自転車活用推進法」が施行されました。5月は自転車月間、5月5日は自転車の日と決まりました。

その「自転車活用推進法」の基本理念にも、二酸化炭素等を発生せず、災害時において機動的である。また、健康増進・交通混雑の緩和等、経済的・社会的な効果があるということで、自転車利用を推奨しています。

また基本概念に沿って、自転車専用道路等の整備、シェアサイクル施設の整備、公共交通機関との連携の促進、国民の健康の保持増進、災害時の有効活用体制の整備、高い安全性を備えた自転車の供給体制整備等々の施策を基本方針として重点的に検討・実施していくことになりました。

既に全国では、多くの自治体が自転車施策の導入・検討を行っており様々な運用が行われています。

高齢化の進む今、町が整備され、「公共交通の機能補完」としてシェアサイクルを活用することで健康寿命を延ばしていく都市が増えることが出来れば、温暖化防止への貢献へつながることも期待されます。

スピードを競う自転車競技を応援するだけでなく、自動車に依存している生活を見直し、自ら体を動かす自転車を利用しましょう。

6-5 事業所の安全衛生

社員の安全・健康のために(安全衛生委員会及び安全衛生環境会議)

当社は、安全は全てに優先すると心得て、労働災害を防止し、社員が安全・健康に仕事を遂行できる職場環境を整えるため、協力会社トライマテリアル(株)と共に、各工場別の安全衛生委員会を組織し、日々意識付けをしています。

定期的に行っている工場別の全社員参加の安全衛生環境会議には産業医にも参加をお願いし、生活の基本となる労働時間短縮を含めた職場環境の改善、メンタルなどの健康問題など、社員の健康保持に気を配ったテーマを意見交換しあい、確認をし、具体的なアクションにつなげています。毎朝始業時には社員全員で安全唱和をすることで身を引き締めています。



粉塵用集塵機設置で工場内環境改善



工場内の環境改善のために、本社工場と千葉工場に集塵機を設置しました。プレートファンでフィルターに粉じんを直接押し込む方式の集塵機で、工場内の空気を浄化させることで、社員の健康管理に役立っています。

防災訓練 (想定外と言わないように)

本社工場は羽田空港の隣、千葉工場は大手製鉄所や東京電力と近接しており、いずれも港湾に面しているため、東日本大震災時の経験を忘れずに、防火、防災訓練(消火・避難)を毎月実施しております。昼間、夜間とも搬入車両の出入りも多く、また工場見学のお客様も増えていることから、不意の災害時に適切な避難誘導が出来るように、数多く訓練の中で災害・防災の正しい知識と技術を習得し、対応できるよう努めています。



安否確認システムの訓練

災害時には全社員がWEBを利用した二つのシステムにアクセスし、お客様を含めて各持場での安否を報告できるよう、「安否確認システムの訓練」を度々実施し、会社がすぐに安全対応が出来るようなシステムで非常時に備えています。

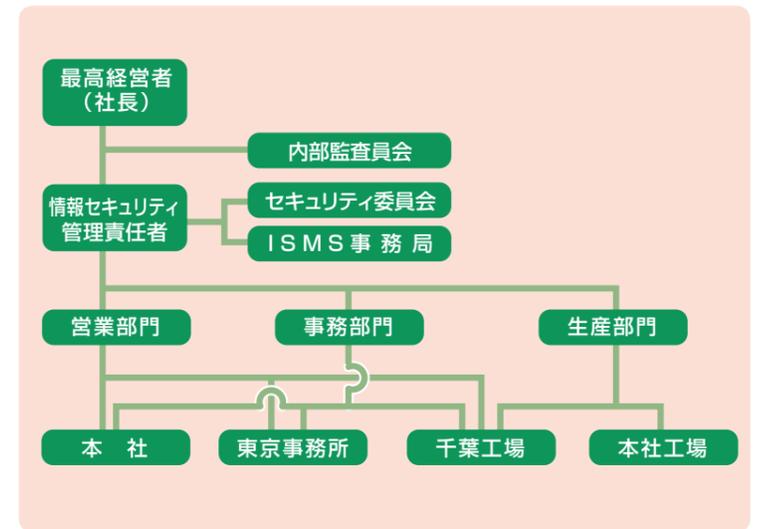


6-6 情報セキュリティマネジメントシステム

情報セキュリティマネジメント体制

ネット社会となり、僅かなミスによる情報漏えいが大きな被害に発展する危険性を抱えている状況下で、情報セキュリティの必要性がますます重要となっております。当社は、2009年4月に「情報セキュリティマネジメントシステム」ISO27001の認証取得をいたしております。

当社は「個人情報の保護に関する法律(個人情報保護法)」に対応し、顧客情報・顧客資産・従業員個人情報保護の責務を果たし、お客様の利益と会社全体の情報セキュリティを推進することが、重要な顧客サービスであると考え、情報セキュリティマネジメント体制を整え、定期的に当社が保有する全ての情報資産をリスク評価し、そのリスクに応じて、対策を実行しております。



お客様がかけがいのないパートナーとして、安心して当社をご利用いただけるよう、社員一人ひとりの意識向上を図るために、マネジメントシステムの構築、維持のPlan - Do - Check - Actのプロセスを通じて、入社時研修をはじめ、定期的に意識の浸透を図り、推進してまいります。

情報セキュリティ基本方針

1. 目的と活動の原則

東港金属株式会社は、金属加工処理業ならびに産業廃棄物の収集運搬及び中間処理業等の事業を進めていく上で、顧客情報や処理を受託した機器の記録部の中に含まれている情報等の重要情報を保有している。一方、事業の拡大に伴う本社事務所とヤード、他事業所、事務所等との情報伝達経路の多様化により、情報の漏洩、改ざん、センター機器や情報伝達経路の不具合による事業活動の遅滞や停止等の潜在的なリスクを有している。情報セキュリティマネジメントシステム(以下ISMS)規格に準拠するISMSの構築、維持のPDCAプロセスを通じて、これらのリスクに対応する仕組みを確立することが当社の重要な顧客サービスとなることを認識し、従業員が一丸となりISMSを実施し、顧客及び当社の継続的な事業発展のために、ここに情報セキュリティ基本方針を制定する。

2. 法令・規程・規則

顧客情報・顧客資産・従業員個人情報の保護の責務を果たすため法的要求事項、及び自主的に受入を決めたその他の要求事項を順守、管理する。

3. ISMS 組織体制の確立

事業の変化とそれに伴うリスクの変化に対して適切に対処するために、情報セキュリティ管理責任者を任命し、その下にセキュリティ委員会とISMS事務局を設ける。また、ISMSのPDCAプロセスが適切に機能していることを評価する内部監査組織を設置する。情報セキュリティ管理責任者とISMS事務局は、当社のISMS全般に亘る管理、運営を行う。

4. リスクへの対応

顧客情報と会計販売情報の機密性を最重要視する。これら情報の漏洩は当社の信頼性を著しく損ない、悪用されれば当社の事業継続に重大な影響を及ぼすと考えられる。また、これら情報が集積しているサーバとその伝達経路の不具合は、業務遂行上の重大なリスクであり、完全性と可用性を考慮する。なお、リスクマネジメントは、客観的に体系化され、重要なリスクを有効に見出す仕組みとして、継続的に見直しを行なえるものとする。

2016年7月1日
東港金属株式会社
代表取締役 福田 隆

7 グループ会社

トライマテリアル株式会社



トライマテリアル株式会社は、東港金属株式会社の協力会社として、お客様からお引き受けする貨物を「安全・確実・迅速」に輸送する役割を任っている、産業廃棄物収集運搬会社です。平成18年に創業し、今年は11年目となりました。10年という節目を越え、改めて物流業務の大切さを感じ、身を引き締めております。

■会社概要

社名 トライマテリアル株式会社
<http://www.trimaterial.co.jp/>
 代表者 代表取締役 青木秀夫
 設立 2006年(平成18年)1月
 資本金 1,000万円
 従業員数 20名(2017年7月1日現在)
 年商 約2.37億円(2016年12月期)
 本社・本社営業所 東京都大田区京浜島2-19-10
 東京事務所 東京都品川区南大井6-17-17
 FINEビル2F
 主な取引先 東港金属株式会社
 所属団体 (一社)東京都トラック協会

■沿革

- 2006年(平成18年)
 - 1月 東京都中央区に一般貨物自動車運送事業、産業廃棄物収集運搬業及び特定労働者派遣事業を目的として設立
 - 東京都大田区京浜島に東京営業所を設立
 - 3月 特定労働者派遣事業許可
 - 6月 一般貨物自動車運送事業許可
 - 7月 各地の産業廃棄物収集運搬業許可取得開始
- 2008年(平成20年)
 - 3月 東京都港区に本社移転
- 2009年(平成21年)
 - 7月 ISO14001 本社営業所で認証取得(東港金属株式会社と合同認証)
- 2010年(平成22年)
 - 2月 東京都の優良性基準適合認定制度で「産廃プロフェッショナル」の認定取得
- 2011年(平成23年)
 - 12月 東京都の優良性基準適合認定制度で「産廃エキスパート」の認定取得
- 2012年(平成24年)
 - 3月 東京都及び千葉県で特別管理産業廃棄物収集運搬の優良認定取得
 - 11月 東京都大田区に本社移転
- 2014年(平成26年)
 - 12月 東京都の優良性基準適合認定制度「産廃エキスパート」認定更新
- 2016年(平成28年)
 - 7月~11月 福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、長野県で産業廃棄物収集運搬業の優良認定を取得
 - 10月 神奈川県で特別管理産業廃棄物収集運搬業の優良認定を取得
 - 12月 岩手で産業廃棄物収集運搬業の優良認定を取得

【環境方針】

トライマテリアル株式会社は、東港金属株式会社の協力会社として同社の環境方針に同調し、資源循環型社会の一翼を担う産業廃棄物の収集運搬業者として、環境負荷の少ない事業活動に取り組み、社会に貢献できる企業を目指し、従業員が一丸となり環境保全対策を実施し、地球環境保全のために尽くします。

1. トライマテリアル株式会社の事業活動及びサービスに関わる環境側面を常に認識し、汚染の予防に努めるとともに環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
 2. トライマテリアル株式会社の環境側面に関係して環境保全水準の向上を図るために法的要求事項、及び自主基準を設け、決めた要求事項を順守します。
 3. トライマテリアル株式会社が行う事業活動及びサービスが環境に与える影響の中で、以下の項目について重点テーマとして改善活動を推進します。
- ◇ 各種収集運搬用に供する車両で使用する燃料の削減を図り、地球温暖化と化石燃料資源の枯渇を抑制することに努めます。

2016年7月1日
 トライマテリアル株式会社
 代表取締役 青木 秀夫

社員の資格一覧

2017年10月末日現在

資格区分	人数
大型自動車免許	19
フォークリフト運転技能者	18
車両系建設機械(整地・運搬・積み込み及び掘削用)運転者	13
玉掛作業者	13
小型移動式クレーン運転士	13
車両系建設機械(解体)運転者	11
けん引免許	9
ガス溶接技能者	6
アーク溶接作業員	4
床上操作式クレーン運転士	3
整備管理者	3
運行管理者	3
安全衛生推進者	2
救命技能認定	2
職長教育	2
派遣元責任者	2
危険物取扱者	2
高所作業車運転者	1
クレーンデリック運転士	1
大型特殊免許	1
大型自動車二種免許	1
簿記	1
交通労働災害防止担当管理者	1
産廃又は特管産廃処理業の許可申請に関する講習会 収集運搬課程(新規)	1

トライメタルズ株式会社

金属スクラップの資源リサイクルを高効率で実現

非鉄金属製品及びスクラップの販売及び輸出入を目的として設立。お客様から排出される金属スクラップの収集・運搬及び選別・加工・保管を協力会社(東港グループ)並びに委託会社により行い、輸出及び国内販売に関して、高品質でコストパフォーマンスの良い、資源リサイクルプロセスを実現しております。また、2011年10月に品質マネジメントシステム(ISO-9001)の認証を受けております。

■会社概要

社名 トライメタルズ株式会社
 代表者 代表取締役社長 福田 隆
 設立 2007年(平成19年)3月
 資本金 600万円
 従業員数 3名
 (平成29年6月末日現在 東港金属株式会社との兼務を含む)
 年商 8.85億円(平成29年6月期)
 本社 東京都大田区京浜島2-20-4
 東京事務所 東京都品川区南大井6-17-17 FINEビル2F
 主な取引先 東港金属株式会社
<http://www.trimetals.co.jp/>

品質方針

当社は、経営理念に基づき、お客様の期待する製品を仕入・販売する事を最優先する
 このため、以下の品質方針を定める
 本方針を通じて要求事項への適合と品質マネジメントシステムの有効性の継続的改善を全社員が一致協力して推進する

1. 品質マネジメントシステムを構築し運用する
2. お客様のニーズと期待に応える
3. 求められる製品及びサービスの品質を満足させる
4. 品質クレームとミスの発生を低減する
5. 関連する法令・規制を尊重する
6. 品質目標を設定し、その達成に向けて努める
7. 本方針及び品質目標は、定期的にレビューされる

品質目標

- ・ ミスのない輸出業務の実施
- ・ 高い品質と高いコストパフォーマンスを達成する
- ・ 顧客満足度の向上のため、顧客重視の業務を実施

2017年7月1日
 トライメタルズ株式会社
 代表取締役 福田 隆

協力会社相関図

Trinity 体制での運営



■協力会社事業所ロケーション

トライマテリアル株式会社
 東京事務所:
 〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-17 FINEビル2F
 TEL:03-5767-8867(代) FAX:03-5767-8870

トライメタルズ株式会社
 東京事務所:
 〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-17 FINEビル2F
 TEL:03-5767-8866(代) FAX:03-5767-8870

トライマテリアル株式会社
 本社・本社営業所:
 〒143-0003 東京都大田区京浜島2-19-10
 TEL:03-3790-2882(代) FAX:03-3790-1755

トライメタルズ株式会社
 本社:
 〒143-0003 東京都大田区京浜島2-20-4
 TEL:03-3790-1751(代) FAX:03-3790-1755

8 東港金属株式会社 アーカイブ (2代目社長 福田庸一の時代・後期)

東港金属株式会社は1902年(明治35年)故銅店・福田勝西商店の創業に始まり、今日までリサイクラーとしての長い歴史を歩んでまいりました。ここに、先達の歩んできた道を環境報告書の紙面で紹介させていただき、今後の東港金属の道標としたいと思います。今回は、東港金属株式会社の2代目社長 福田庸一の時代の後期(昭和20年～35年)を紹介いたします。

1974年(昭和49年) 銅合金再生地金の取扱地位の向上に貢献

庸一は、「銅合金塊製造工業全国連合会」を創立させ会長に就任
昭和48年のオイルショックを引金として、重油等の統制割り当ての懸念もあり、全国組織結成の声が上がっていたのを受けて連合会を創立させることに力を入れた。
全国組織を作り統制等に対応するために、先ず組織内の設備、生産、販売、副資材、使用燃料などの統計調査実施を前提条件とした。
しかし、アルミ、亜鉛、鉛等の再生地金が統計上独立しているのに、それまで統計上「くず」の範疇で扱われていた銅合金再生地金を、統計の品目増加は認められない方向にあるため、やむを得ず製品として統計に表示することで当局に合意させたようである。

1979年(昭和54年) 4月 京浜島に工場移転

東京都の環境政策のもとでの工場移転計画にともない、大田区京浜島の鋳物団地に新工場を設立した。
板橋区に在った系列の東京精錬株式会社も、社名を東京銅基合金工業株式会社(社長:福田庸一、資本金:6200万円)と商号を変更し移転している。
敷地面積4150.70㎡、床面積は工場、倉庫、事務所を合わせて2014.54㎡であり、現在の東港金属京浜島本社工場となっている場所である。
これまでの研究と長年の習練により、スクラップの合金をかなり正確に種類別に振り分ける技術を持っている東港金属株式会社、スクラップになったさまざまな合金を回収・分別し、東京銅基合金株式会社がそれらを溶解してインゴットを製造。そのインゴットをまた東港金属株式会社が販売するという2社共同で運営を始め、現在の事業部制の会社のようなものにした。

当時の東京銅基合金工業株式会社の設立趣旨に、

従来我国の銅合金鋳物業者は、その原材料の大部分をスクラップに依存していたため鋳造製品の成分の均一化は望めず、又、異質物(アルミニウム、硅素等)混入により不良品を生じ作業能率が著しく低下する場合があります。
我国も工業水準が上昇するにつれて、機械、船舶、車輛等もその製品は高精度のものが要求されて来ました。
当社は常に安定した製品を作るため完全に精錬し品質が保証されたインゴットを製作するため近代設備による精錬専門メーカーとして設立しました。

とあるように、少ない資源の有効利用を使命として、スクラップを無駄にせず、少しでも多く再生することに情熱をかたむけていった。

工場の生産能力は、当初合金インゴット部門が月産300トン、鋳物部門が溶解量で60トンから始まった。日本のバルブは当時殆ど青銅製だが、将来の低圧バルブ利用に向けて、黄銅合金型鋳物を作るべく黄銅合金の生産に進出した。
インゴット中に異質物が混入した不良品は、精密さを必要としている日本国内の各製造業から敬遠される。
JIS規格の認可が下りているインゴット工場は当時全国に3社だけで、東京銅基合金株式会社はその1社であった。永年蓄えた高度な技術を駆使しており、各国から同業者が見学に訪れて、社員の引き抜き依頼があったほどである。



工場外観



新工場落成式で挨拶する庸一社長



インゴット製造作業風景



出来上がったインゴット製品

社員教育では徹底した実践主義をとって、客との打ち合わせには必ず若い従業員を同席させ、商談のノウハウを身につかせることで人材の育成にも力を入れた。

9 編集方針

◆ガイドライン対照表

環境報告書ガイドライン 2012年版	掲載ページ
【環境報告の基本的事項】	
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 対象組織の範囲・対象期間	22
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	22
(3) 報告方針	5,19
(4) 公表媒体の方針等	14,22
2. 経営責任者の諸言	1,19
3. 環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	1,5,19
(2) KPIの時系列一覧	6,8
(3) 個別の環境課題に関する対応統括	5,6,7,8,12,14,15,17,19
4. マテリアルバランス	7,8
【環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況】を表す情報・指標】	
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1) 環境配慮の方針	5,19
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	5,6,19
2. 組織体制及びガバナンスの状況	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	6
(2) 環境リスクマネジメント体制	6
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	12
3. ステークホルダーへの対応の状況	
(1) ステークホルダーへの対応	1,5,12,15,17,19,20
(2) 環境に関する社会貢献活動等	14,15,16
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	8,12,19,20
(2) グリーン購入・調達	12
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	9,10
(4) 環境関連の新技术・研究開発	9,10
(5) 環境に配慮した輸送	5,6,7,8,19
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発/投資等	5,7,8,9,10,12
(7) 環境に配慮した廃棄物処理/リサイクル	5,7,8,9,10,12
【事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況】を表す情報・指標】	
1. 資源・エネルギーの投入の状況	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	6,7,8
(2) 総物質投入量及びその低減対策	6,7,8
(3) 水資源投入量及びその低減対策	7,8
2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)	6,7,8
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	6,7,8
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	6,7,8
(3) 総排水量及びその低減対策	7,8
(4) 大気汚染、生産環境に係る負荷量及びその低減対策	6,7,8,9,10,11,12,19
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	9,10
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	6,7,8,9,10
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	9,10,11,12
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	—
【環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況】を表す情報・指標】	
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	
(1) 事業者における経済的側面の状況	12
(2) 社会における経済的側面の状況	12
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	1,15,16,17,19
【その他の記載事項等】	
1. 後発事象等	
(1) 後発事象	2,4,7,13,14,16,19
(2) 臨時的事象	—
2. 環境情報の第三者審査等	—

■編集方針

東港金属株式会社は、当社の環境に関する考え方と取組姿勢を中心とした業務内容そのままを、定期的に報告することにより、ステークホルダーの皆様の良きリサイクルパートナーとして、事業活動の透明性、信頼性を評価、ご理解いただきたく、環境報告書を作成いたしております。お気づきになりましたことなど、ご指摘ご指導賜りたくお願い申し上げます。

◆環境報告書対象組織・期間

環境目標設定及び達成状況の対象組織は、ISO14001と同じく東港金属株式会社(本社・本社工場、千葉工場、東京事務所)及びトリアリアル株式会社(本社営業所)としました。
また、マテリアルバランス及び目標設定以外のエネルギー投入量等の実績は天童支店も含めております。

●対象期間

第72期(2016年7月～2017年6月)をまとめたものですが、報告内容には一部 第73期の内容を含みます。

●準拠、参考ガイドライン

この環境報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン(2012年版)」を参考にして作成いたしました。

●発行 2017年11月

【お問い合わせ先】

東港金属株式会社 経営企画室
〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-17 FINEビル2F
TEL: 03-5767-8860(代)
FAX: 03-5767-8870
ホームページ <https://www.tokometal.co.jp/>

当社では、2007年より【環境報告書】を作成しております。今までの環境報告書は、当社のホームページからご覧いただけます。

Toko Metal

Multi Material Recycler

115th
since 1902



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用